

伝え合うことの大切さ

仲嶺 真弓

昨年度の6月号も同じこのタイトルでつばさっ子の巻頭を書きました。昨年度は数人の保護者から「仲ちゃんと話がしたいから時間をつくってほしい。」「園長先生、今時間いけますか？少し話をきいてもらいたい。」「わからないことがあるので聞いてもいいですか？」などなど幾つか依頼を受け話したことを思い出します。話の内容は、行事についての疑問もあれば、職員の言動や態度など気になることについての相談もありました。時には、送迎時で気になることの相談もありました。その話の一つひとつに耳を傾けながら話を聞き、対応するのは当たり前前で、園長としての私の一番大事な役割はその話をどう捉えて今後活かしていくのかなのだと思っています。保護者の意見を聞けることは、とても貴重で大切な機会です。職員だけの視点で見えることには限りがあるので、保護者の視点を聞けることは、それだけ見える視野も広がり、何よりも馴れ合いの関係になりかけたときの「気付き」をさせてもらえるので、とてもありがたいことと私は思っています。

たとえば、毎年一度は必ず聞く話は、子ども・大人の呼び方についてです。保育園のしおりの「共同保育園」に込めた思い（1ページ）の最後の行に「共に子育てを担う仲間として職員のことも「先生」でなくニックネームで呼んでいただけるような関係を築ければと思っています。」という文章のとおり、職員はそうありたいという思いも込めて日々やり取りを重ねているのですが、そこに違和感をもち、ニックネームで呼びあえない人もいます。申し訳なさそうに相談に来られるのですが、違和感があるなら、無理にそうしなくてもいいから、呼びやすい呼び方で呼んでくれていいのですよと話す、ほっとした表情をされたのが印象的でした。一人ひとり、感覚が違うのが当たり前で、そこを理解しあえる（知り合える）ことが大切で、園の方針に縛られる必要はないと私は思います。

また、何年か前には「思いを込めてつけた我が子の名前を大切にしてほしい。」という問いかけをしてくれた保護者もいました。これに関しては職員の馴れ合いもあったと私は思います。何のために家庭状況調査票に家での呼び方も書いてもらう欄を作っているのか。職員それぞれに子育てパートナーとして思いがあるのなら、保護者が子どもの名前に込めた思いも大切に心に留めておくべきではないかと職員会議で話し、自分たちの言動を振り返る機会をもらえた出来事でした。

今年度も、何人かの保護者の方が質問や疑問を話しに来てくれています。それは、園長である私だけではなく、各クラスでも保護者から職員に問いかけてくれていることを耳にすると、とてもうれしく思います。人は一人ひとり違うからこそ、いろんな考えがあるし、感じ方がある。だからこそ、声にしないと、わからないし、耳にしたことを気付きとして心にとめない、学びにはなりません。

子どもたちにとって、より良いものを目指したいからこそ、どんなことでも、話せる関係でありたいと願います。話ができるからこそ、違いがわかり、理解しあえ、次に活かせることが見つけられる。そのことをうれしく思うと同時に、伝え合うことの大切さを噛み締めることができる瞬間に心揺さぶられ、これからの大人同士の関係に大いに期待したい思いでいます。

【 親子まつり、お疲れさまでした！！ 】

先日の親子まつりでは、カンガルーの会（つばさ保護者会）にヘルプをお願いしたところ、事務係担当者が快くイベント係の方にメール発信してくださりました。イベント係担当で集まって頂いた方は親子まつりが楽しい一時になるようサポート。職員親子まつり担当者との企画会議に参加して下さった方、4・5歳児の芋畑のうねづくりに汗を流して下さった方、2・3歳児ではお楽しみで利用したガチャガチャカプセルを集めて下さった方、宝の地図で必要な動物写真を作って下さった方、0・1歳児で雨天用も含めて段ボール遊具を作成して下さった方、本当にありがとうございました。一緒に考え、サポートして下さったおかげで、今年も大にお散歩コースを楽しむことができました。当日の内容は最終ページをご覧ください。



【 定期的に巡回してくれることになりました 】

昨今、全国的に幼少年期の子どもたちがまきこまれる事件が多発していることを踏まえ、朝代交番所のおまわりさんが、定期的に保育園の周辺を見回り、巡回してくれることになりました。